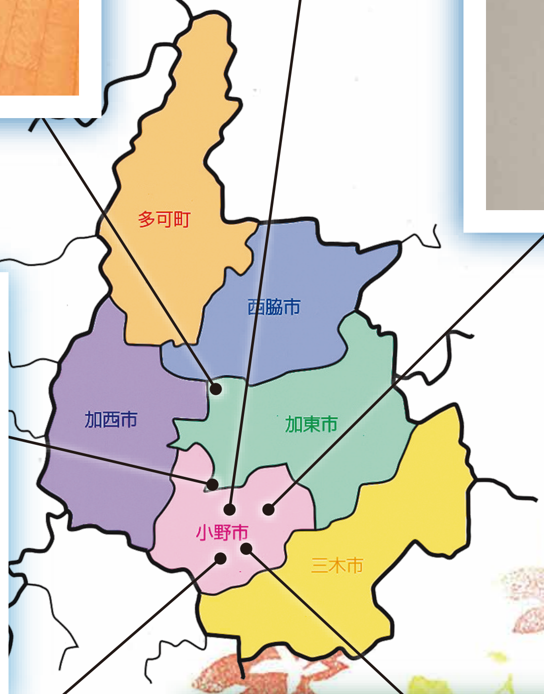
小野市議会だより

2019. 11
No.189

わかあゆ園

農業共済

湧水苑



北播衛生

小野クリーンセンター

北播磨総合医療センター

広　域　連　携

知っていますか? 広域連携

今日、市町村は少子高齢化や情報化の進展といった多様化、高度化するとともに広域化する行政課題への対応に迫られています。事業によっては、広域的な連携をすることによって効率的で質的にも向上した事務処理が可能となります。
広域連携の中でも、一部事務組合とは、複数の地方公共団体が行政サービスの一部を共同で行うために設置する組織で、小野市は5つの組合に加入しています。

北播磨総合医療センター企業団組合　小野　三木

北播磨総合医療センター(小野市市場町)

業務内容 開院7年目、北播磨の中核病院として高度急性期医療を担っています。患者にも医療人にも魅力あるマグネットホスピタルとして、また地域連携による切れ目のない医療を提供しています。

課　題 駐車場不足解消のため、北側山林に約300台の駐車場整備を令和4年3月までに行います。また、待ち時間短縮の対策として、採血ブースや自動精算機の増設を予定しています。

組合議員 村本洋子、久後淳司、平田真実、河島三奈、小林千津子

小野加東広域事務組合　小野　加東

湧水苑(小野市万勝寺町)

業務内容 農業災害補償の公的な保険制度である農業共済事業と斎場湧水苑の管理運営を行っています。農業共済事業は令和2年4月1日に兵庫県農業共済組合に引き継ぐため、令和2年度からは斎場湧水苑の管理運営のみとなります。

課　題 斎場湧水苑は、平成12年に竣工し、20年目を迎えます。今後、施設の長寿命化に向け、計画的な改修を行っていく必要があります。

組合議員 松永美由紀、河島泉、喜始真吾、岡嶋正昭

小野加東加西環境施設事務組合　小野　加東　加西

小野クリーンセンター(小野市天神町)

業務内容 家庭や事業所から発生する一般廃棄物(可燃ごみ・粗大ごみ等)を処理する中間処理施設です。PETボトル、金属類、古紙等のリサイクルも行っています。

課　題 平成26年に加西市、平成31年に加東市滝野地区が加入し、効率化により負担金を年間10%削減。これらの効果を基に、今後計画される新施設では、北播磨圏域での取り組みが期待されます。

組合議員 藤原貴希、前田光教、藤原章

POINT

来年度から兵庫県農業共済組合が設立され、農業共済事業は県内全て統合されます。
そのため、9月定例会で組合事務所の変更、組合議員数の変更、財産の処分等の議案を可決しています。

北播衛生事務組合　小野　西脇　加東

北播衛生事務組合(加東市西古瀬)

業務内容 各市域からバキュームカー等で収集されたし尿や浄化槽汚泥を処理、放流する施設です。また、敷地内には、スポーツ公園として、サッカー場が併設されています。

課　題 公共下水道の整備が進み、し尿や浄化槽汚泥の搬入量は、平成5年と比べると約75%減少しています。将来的には、水で希釈の上、公共下水道に放流する方式に転換する予定です。

組合議員 山本悟朗、小林千津子、川名善三

北播磨こども発達支援センター事務組合わかあゆ園　小野　西脇　加西　加東

わかあゆ園(加東市下滝野)

業務内容 発達の遅れや障がいを持つ、0歳～18歳のお子さまを対象に保護者とともに通園し、リハビリや保育等の療育を行い、地域で豊かに主体的に過ごせるよう、お子さまとその家族を支援しています。

課　題 施設老朽化により長寿命化計画が急がれます。多可町の脱退により各市負担金の増大や、療育に必要な専門職(理学療法士、作業療法士、言語聴覚士)等の充実が課題です。

組合議員 髙坂純子、河島信行

第418回 9月定例会

会議期間29日間
（8月30日～9月27日）

市長提出議案……議案22件（決算認定4件・補正予算6件・条例改正8件・その他4件）
議員提出議案……意見書案1件
計23件

審議議案の中から PICK UP!!

令和3年度課税から要件に該当する未婚のひとり親も市民税非課税に（議案第49号）

子どもの貧困に対応するため、児童扶養手当の支給を受けている方で前年の所得金額が135万円以下の未婚のひとり親も前年所得金額が135万円以下の障がい者、寡婦または寡夫と同様市民税が非課税になります。（令和3年1月1日施行）

旧氏での印鑑登録が可能に（議案第51号）

希望者は旧氏を用いた印鑑登録が可能となり、印鑑登録証明書にも旧氏を併記可能とします。住民基本台帳法等の改正によって住民票やマイナンバーカードにも旧氏の併記が出来るようになります。（令和元年11月5日施行）

市有地を売却（議案第58号）

ひょうご小野産業団地の事業用地として、新都市中央線の道路法面の一部を兵庫県企業庁に払い下げます。
小野市市場町926番地442の一部外8筆　8,607.81㎡
払下げ金額　1億1,534万4,654円（鑑定価格1㎡当たり13,400円）

一般会計補正予算（議案第41号）自衛隊音楽隊のコンサート開催

令和2年1月17日(金)海上自衛隊東京音楽隊によるコンサート及びレセプションをうるおい交流館エクラで開催するため委託料を増額します。

桜づつみ回廊魅力アップ!!

通路外側からも桜を照らすことで夜桜をより美しく見せつつ見学者の安全性を高めるため照明機器を増設することや駐車場の整地を行います。

提出議案と審議結果

★全会一致ですべての議案を認定・可決

区分	議案番号	議案名
決算	第37号	平成30年度小野市歳入歳出決算の認定について
	第38号	平成30年度小野市都市開発事業会計決算の認定について
	第39号	平成30年度小野市水道事業会計利益の処分及び決算の認定について
	第40号	平成30年度小野市下水道事業会計決算の認定について
補正予算	第41号	令和元年度小野市一般会計補正予算（第2号）
	第42号	令和元年度小野市国民健康保険特別会計補正予算（第1号）
	第43号	令和元年度小野市介護保険特別会計補正予算（第2号）
	第44号	令和元年度小野市後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）
	第45号	令和元年度小野市水道事業会計補正予算（第1号）
	第46号	令和元年度小野市下水道事業会計補正予算（第1号）
条例	第47号	小野市会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の制定について
	第48号	地方公務員法及び地方自治法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について
	第49号	小野市税条例等の一部を改正する条例の制定について
	第50号	小野市災害弔慰金の支給等に関する条例の一部を改正する条例の制定について
	第51号	小野市印鑑条例の一部を改正する条例の制定について
	第52号	小野市手数料徴収条例の一部を改正する条例の制定について
	第53号	小野市消防団員の定員、任免、給与、服務等に関する条例の一部を改正する条例の制定について
	第54号	小野市上水道給水条例の一部を改正する条例の制定について
その他	第55号	小野加東広域事務組合規約の変更について
	第56号	小野加東広域事務組合の財産の処分について
	第57号	三木市長が三木市の区域をこえて認定した三木市道路線を変更することを承諾することについて
	第58号	土地の処分について
意見書	第1号	下水道施設の改築への国庫支援の継続及び今後増大が見込まれる改築事業予算の増額を求める意見書

ここが聞きたい 一般質問!!

市民のみなさまの生活に関わることについて、9人の議員が一般質問を行いました。

（一般質問は発言した議員が編集しました）

●一般質問とは……

市政全般にわたり、執行機関（市長）に対し事務の執行状況や将来における政策方針等について議員が質問し、市長や部長等が答弁します。
また、小野市では、市長から提出された議案についても一般質問することができます。

●質問テーマは?

1．質問する内容は、議案とは関係なく議員個人が自由に決めています。
2．議員個人が自分なりの問題意識を市政に問い、市の見解を求めます。

●質問の制限時間は?

1人あたりの制限時間は40分です。（答弁は含みません）

《一般質問をスマホ・タブレットで視聴できます!》

各議員の顔写真の下のQRコードをスマートフォンなどで読み取ると、その議員の一般質問などの動画をご覧いただけます。

髙坂純子 議員（市民クラブ）

QRコード

幼稚園の今後について

質問 保育の無償化・認定こども園制度による就学前教育・保育の一体化の流れの中で、幼稚園の方向性を示すべきと思うが。

答弁 幼稚園児数が減少するからという理由で、安易に統廃合等を考えるのではなく、川島隆太教授の脳科学理論に基づく小野市流の充実した幼児教育を確立していく。（教育長）

質問 子ども・子育て支援のニーズ調査でも3歳児クラスの設置希望がある。空き教室もあり、教員も受け入れ態勢ができると考えるが。

答弁 教育という観点からはせめて3歳児までは親子のふれあいを大切にし、家庭で見て欲しいというのが基本的な考えであり、3歳児クラスは設けない。（市長）

消防職員の定数について

質問 小野市定数条例では消防職員の定数は80人。現在71人。勤務体制における課題はないのか。

答弁 研修中の職員を除き実質67人で消防業務を行っている。署長の兼務、課長の現場対応などの体制をとっている。（市当局）

質問 救急業務の大幅増加。災害の多様化等、今後の消防体制には職員の増員が必要ではないか。

答弁 機能に応じて人員数が決まる。現職員で十分対応できている。災害は複合的な組織で対応する。定数にまで増やすつもりはない。（市長）

小野市の分娩体制について

質問 市内産婦人科医院が来年3月より分娩を休止する。影響と対応は。

答弁 市民の関心を高め、広域連携や様々な部門との連携により対応すべき課題である。（市長）

藤原貴希 議員（市民クラブ）

QRコード

医薬品に関する問題について

質問 残薬を減らすための今後の取組について問う。

答弁 残薬の問題は医療費を増加させ、財政的な面でも大きな社会問題となっている。残薬の発生を抑えるには患者自らが薬の正しい服用に関しての意識を高めることが重要であるため、広報や市ホームページ等で更なる周知啓発に努めていきたい。（市当局）

質問 ポリファーマシーの防止について問う。

答弁 ポリファーマシーとは複数の種類の薬を服用することにより、薬物有害事象が発生することである。本年度にはその発生リスクのある数名に対して訪問指導を予定している。防止のため、これまでの啓発に加え、かかりつけ医、かかりつけ薬剤師、お薬手帳の活用について更に周知していきたい。また令和3年10月から導入予定のオンライン資格確認システムにより、服薬管理が容易になり、リスク軽減が可能と考えている。（市当局）

答弁 残薬の問題とともに、今すぐこの問題について特別な取組をするつもりはない。（市長）

白雲谷温泉ゆぴか等のレストラン撤退による影響について

答弁 本年8月に運営事業者からゆぴか及び小野向日葵ホテルから撤退したい旨の申し出があった。ゆぴかにおいては現在、新たな業者選定を進めており、ゆぴかのリニューアルオープン時には新しいレストラン及び売店をご利用いただけるよう取り組んでいく。小野向日葵ホテルに関しては、施設運営を委託している小野匠工業会の意向を確認し、継続して運営していけるよう協議を進めていく。（市当局）

久後淳司 議員（市民クラブ）

QRコード

小学校の今後について

質問 学校の統廃合に対する考え方、検討段階に入るタイミングや基準は。

答弁 「学校適正規模と統廃合及び老朽化対策のマスタープラン」では、3年間の準備期間が必要であり、検討に入るタイミングは令和5年度以降と考えている。

学校の統廃合は、児童生徒数の増減だけで決定するのではなく、校舎の耐用年数、地域とのかかわり、少人数における教育効果等についてしっかり検証し、総合的に勘案した上で、さらに地域の意見を十分に把握し検討する。（市当局）

ひまわりの丘公園のリニューアルについて

質問 ひまわりベーカリカフェが7月に閉店しているが今後の運営は。

答弁 JA兵庫みらい直営による新たなパン工房が9月14日にオープンした。（市当局）

質問 Park－PFIを含めた民間活力の導入は。

答弁 本年3月に国土交通省のマーケットサウンディングに参加した。成功事例は都会であり、地方都市では民間事業者の参入は難しい。（市当局）

安心・安全な水道水の提供について

質問 おのみ～ずをペットボトルから、アルミ缶など保存率・リサイクル率の高い素材変更への考えは。

答弁 コスト面等の要因から、変更の予定はない。（市当局）

岡嶋 正昭 議員（市民クラブ）

QRコード

東播磨道の整備について

質問 樫山ランプ周辺道路の整備について

答弁 樫山町西交差点から樫山ランプの間の市道4220号線を一車線から二車線へ改良と右折レーンの設置を県により計画。また、道路管理上、見通し等に課題のあるカーブ等の部分的な改善は、供用までに市として実施したい。

但し、東播磨道の供用後において、これらの交通予測と異なる結果となる場合は、最善策を講じる考えである。（市当局）

小野市のまちづくりについて

質問 新庁舎周辺の整備について

答弁 新庁舎周辺区域はすべてが市街化調整区域に位置している。

新庁舎周辺区域はシビックゾーンとして積極的にまちづくりを行ってきた。

今後もさらに、まちづくりを進め、新庁舎周辺を小野市の中心地として、発展させていきたい。

しかしながら、周辺区域は市街化調整区域であり、加えて農業振興区域に指定されており、開発は非常に難しい状況にある。

長期的な展望を持って計画的に市街化の拡大を図り、住宅地や商業施設等の立地を誘導できるよう検討していく。（市当局）

■その他の質問事項

・中心市街地の整備について

・中心市街地周辺地域の住宅建設について

小林千津子 議員（市民クラブ）

QRコード

買い物弱者対策について

質問 買い物弱者支援と災害時の食料供給拠点としての「公設コンビニ」設置及び運営に対する支援について

答弁 現在具体化はしていないが地域コミュニティの場となるような地域にあった地域住民による運営を期待。支援策として施設の改修費や運営補助金等もその一つ。「地域が地域を守り、地域を育てる」という視点に立ち地域全体で災害時の対応や買い物弱者を守るという地元の熱意が不可欠。（市当局）

答弁 熱意と創意と誠意を持った方々の取組に対しては全面的に支援する。（市長）

質問 高齢者の移動手段について

答弁 「デマンドバス」のあり方の検討も含め「らんらんバス」を補完する新たな交通手段として地域内でのボランティアや助け合いによる輸送サービスの提供が必要である。買い物支援のみならず予防医療の支援策として地域住民が主体となり地域内をフレキシブルに運行できる「地域バス」等新たな交通体系の構築について引き続き検討していく。（市当局）

不登校対策について

質問 文部科学省の「問題行動・不登校調査」によると2017年度の小中学校における不登校者数は14万4，031人に上り、統計を開始した1998年以降最多となり、「家庭状況」が主な原因となっている。特に夏休みなど長期休業明けに不登校になり自殺が多くなると言われているがこの時期における不登校対策はどのように実施されたのか。

答弁 夏休みが終わる前に市内各学校に注意喚起し、一学期に欠席が多かった児童生徒への連絡（家庭訪問）等定期的に行い不登校等の未然防止と早期対応を行っている。（市当局）

平田 真実 議員（ともに輝くおの）

QRコード

幼児教育・保育について

質問 市立幼稚園の体制が変わらないとなると、市内で3歳児の幼児教育に対応できるのは認定こども園2園となる。国の施策により10月から3歳児幼児教育の無償化も始まるが、市内の3歳児1号認定枠は少なく、まずは3歳児の幼児教育について体制を充実すべきであると考える。このように国の政策とズレが生じていることについてどう対応していくか。

答弁 小野市における子育て教育の理念は、自立した親により自立した子どもを育むことであり、教育という観点からはせめて3歳児までは親子のふれあいを大切にし、家庭で見てほしいというのが基本的な考えである。現時点では3歳児における幼児教育を行う考えはない。（市長）

若い世代の健康づくりについて

質問 生活習慣病の罹患率が高くなる40歳以上になって初めて健康づくりに取り組むのではなく、社会人として責任ある活動が始まる19歳から39歳の青年期の健康づくりがより重要である。町ぐるみ総合健診やおのアクティブポイントに若い方が参加しやすいものにするなど新たな付加価値を付ける考えはないか。

答弁 市内でも39歳以下の生活習慣病罹患状況や、食生活、ストレス等多くの分野において、青年期の健康上の課題が顕著になってきていると把握しており、一次予防の実践をできるだけ若い世代から行うことが重要であると考えている。ICTを用いた健康づくりや民間事業者との連携なども視野に入れ、予防医療の機運を高める新たな施策をまとめていきたい。（市当局）

村本 洋子 議員（公明党）

QRコード

中高年のひきこもりの現状と対策について

質問 8050問題での、中高年のひきこもりの相談窓口と周知について問う。

答弁 市の相談窓口である「onoひまわりほっとライン」では、専任の相談員が担当し、ひきこもりだけでなく多種多様な相談に応じる。対応は個人ではなく、関係部署間の情報共有・一元化を図り、組織として対応。窓口の周知は、市ホームページへの掲載、公共施設、市内の店舗、事業所などに相談啓発カードを設置。（市当局）

質問 介護や病気、生活困窮などの相談の中でひきこもりが明らかになるケースをどのように連携・対応しているか。

答弁 複合的な課題解決に向け、内容に応じ、関係部署、団体と連携し対応。ケースによっては、支援調整会議を開催。さらに専門的支援が必要な場合、兵庫ひきこもり相談支援センター（姫路市）や、ひきこもり専門相談（加東健康福祉事務所）等へつなぐ。（市当局）

SDGs（持続可能な開発目標）の取組について

答弁 本年度から2ヶ年かけて策定する「おのビジョン2030」及び「小野市総合戦略」において、持続可能の理念を踏まえた『小野市流SDGs』として、①質の高い教育②健康と福祉③産業と技術革新の基盤④住み続けられるまちづくりの項目について計画に盛り込む。市民への意見聴取やSDGsへの理解を深め、近隣市町との広域連携を含む小野市ならではの『人口が減っても活力を失わないまちづくり』に挑戦する。（市当局）

各議員の顔写真の下のQRコードをスマートフォンなどで読み取ると、その議員の一般質問などの動画をご覧いただけます。

山本悟朗 議員（ともに輝くおの）

QRコード

調整区域と市街化区域における将来展望について

質問 市の人口は、平成20年度末に約50，500人だったが、30年度末には約48，500人となり緩やかに減少している。人口の増減の内訳を見ていくと、市街化区域では増加し、調整区域では減少している。地区別で見ると、大部、小野地区では増加しているが、来住、河合、下東条地区では大幅に減少している。

今後の都市計画を考えるにあたり、10年後の地区別の人口予測について市長の考えを伺う。

答弁 2050年には北播磨の人口が5万人減少する。つまり一つの市がなくなることを想定し、市全体の将来人口の想定は行っている。しかし、市民の生き方等の価値観はいろいろあってよい。市民に既成概念を植え付けることになるため、行政が地区別の人口想定はしない方がよい。
（市長）

空き家対策ついて

質問 今後私たちが迎える急激な人口減少社会にあっては、地域によっては地価が下落し、家屋の解体費用が更地とした土地代金より高額になることにより、空き家の解体が進まないことが予測される。また、市域全体の約6％しかない市街化区域においては、空き家を貸す、転売する、早期に解体するなどして、土地の有効活用を図る必要がある。

これらを踏まえ、現在自動車でみられるような解体費用を事前に積み立てるシステムを検討する必要があると考えるが、市長の考えを伺う。

答弁 空き家は個人の資産であり、個人の責任において管理するものである。市としては、危険な状態となった空き家についての対策は講じるが、何よりも地域が主体となり、空き家を発生させない意識を持ち、行政と連携して対応していくことが重要である。
（市長）

藤原 章 議員（日本共産党）

QRコード

放課後児童の居場所づくりについて

質問 アフタースクールで「3年生になったら入れなくなった。」という声を聞く。高学年でも入りたいという希望もある。希望者全員の受け入れをするべきではないか。

答弁 待機児童が発生したのは小野、小野東、市場、大部の各小学校で合計51名。新入生を優先するので3年生が利用できない状況も出ている。希望者全員の受け入れは、保育室や支援員の確保に課題があるうえ、夏休みの後には待機がゼロになる現実もあり、現時点では考えていない。また高学年の受け入れは子どもの成長と自立を促進する観点からも考えていない。
（市当局）

県施策・中小企業経営支援と商店街の活性化について

質問 兵庫県では中小企業や商店街活性化に多くの支援策があるが、市内企業の活用状況や商店街の動きは。

答弁 30年度に県の支援策で活用したのは専門相談員による相談38件、営業・販路開拓1件、ブランド開発2件、農商工連携2件。商店街を中心とした区域は本年4月に「まちなか再生区域」の指定を受け、協議会で再生計画策定に向け事業着手されている。
（市当局）

会計年度任用職員制度の導入について

質問 嘱託、非常勤や臨時職員が「会計年度任用職員」となるが、新制度で待遇に変化があるのか。また不利益はないのか。

答弁 原則、現在の年収ベースの収入を保障し、一定の休暇制度も付与される。人事評価の対象にもなる。

新制度により不利益が生じることはないと考えている。
（市当局）

常任委員会審査報告

9月定例会の提出議案審査について、9月25日に総務文教、民生地域の各常任委員会を開催しました。

≪総務文教常任委員会≫

付託議案数：8件（議案第37号・38号・41号・47号・48号・49号・52号・53号）
審 査 結 果：反対討論はなく、全会一致で可決すべきと決定。

総務文教常任委員会

≪民生地域常任委員会≫

付託議案数：16件（議案第37号・39号・40号・41号・42号・43号・44号・45号・46号・50号・51号・54号・55号・56号・57号・58号）
審 査 結 果：反対討論はなく、全会一致で可決すべきと決定。

民生地域常任委員会

第7回 議会調査研究活動報告会

令和元年度　小野市議会 議会調査研究活動（7～9月まで）　**9月27日開催!!**

派遣議員	派 遣 日	派 遣 先	内 容
藤原貴希 喜始真吾	8月7日～9日	全国市町村国際文化研修所 （滋賀県大津市）	市町村議会議員研修 （1年目議員のために）
村本洋子 久後淳司 河島三奈 髙坂純子 前田光教 小林千津子 岡嶋正昭 川名善三	8月8日～9日	奈良県奈良市	奈良市ポイント制度について
		和歌山県田辺市	鳥獣被害対策・ジビエ事業について

当局も交えて、意見交換、情報共有を行いました。
詳しくは議会ホームページの「議会調査研究活動報告」で。

平成30年度決算を小野市議会がチェック!!

一般会計、特別会計及び企業会計の決算について、全議員出席による決算研修会を３日間にわたり開催した後、付託委員会で審査を行い、認定しました。

決　算　額（歳　出）

一　般　会　計	203億4,800万円
特　別　会　計（国民健康保険・介護保険・後期高齢者医療）	100億4,700万円
都市開発事業会計	3,900万円
水 道 事 業 会 計	21億8,700万円
下水道事業会計	30億7,600万円

一般会計　市民１人当たりに換算すると…

収入	
市　税	15万1千円
地方譲与税等交付金（国が徴収し市に譲渡されるお金）	2万9千円
地方交付税（国からの税の配分）	6万2千円
繰越金・繰入金（前年度繰越金他会計繰入金）	2万7千円
負担金手数料等（使用料証明手数料等）	1万3千円
国県支出金（国県からのお金）	8万6千円
市　債（借金）	4万5千円
寄附金（ふるさと納税）	4千円
その他	1万5千円
収入合計	43万2千円

支出	
議会費	4千円
総務費	9万2千円
民生費	13万8千円
衛生費	3万3千円
農林費	1万4千円
商工費	1万3千円
土木費	3万7千円
消防費	1万4千円
教育費	3万5千円
公債費	3万9千円
支出合計	41万9千円

借金

市債残高　39万0千円

（後から国が補てんする分を除くと）

市債残高　11万3千円

貯金

基金残高　19万1千円

決算研修会での質問・意見

脳科学理論に基づく教育の成果は

平成30年度は学力テストの結果もよく、成果が表れてきたとも言える。それ以上に、授業が好きか等、生活面や学習面についての質問にも肯定的な生徒が多く、注目されている。

浄谷黒川多目的運動広場の整備工事の進捗は

平成26年度から事業を開始し、約5.4ヘクタール、総事業費約11億円で、今年度末に完成する予定。正式名称も「小野希望の丘　陸上競技場」に決定した。公募した愛称は、年内に決定する予定。

ファミサポの利用状況について

お子さんの習い事の送迎が7割以上。
また、始業前、放課後の預かり等、共働きが増える中で、隙間の時間を埋めているのがこの事業。
利用者の増加が進んでおり、協力会員の高齢化や、いかに協力会員を増やしていくかが課題。

通学路の危険ブロック塀の状況は

通学路で危険だと思われるブロック塀96件中20件が撤去済み。残りは、学校、PTA、自治会等と連携しながら、所有者に改修を働きかけていく。

有害鳥獣による被害は

平成30年度の被害額864万円。捕獲数はイノシシ34頭、アライグマ203頭、ヌートリア2頭。今のところ一番効果のある侵入防止柵の補助事業を今後も継続。
なお、狩猟免許取得に対する補助金があるが、平成30年度は3名の方が罠の狩猟免許を取得された。

JR市場駅の無料駐車場の利用時間について

無料駐車場は、買い物等の際に一時利用できる駐車場とするため、利用時間を8時から19時としており、時間を制限しなければ、早朝から通勤、通学利用により満車となることが予想される。機械導入による時間貸しも検討されたが、過大なコストを要すること等から、現在の形態及び時間となっている。
なお、利用時間外は他の沿線駅周辺の時間貸し駐車場の活用も。

おのアクティブポイントの反響は

ボランティア活動の励みになるという声が多い。商品をもらうのも嬉しいが、ポイントを貯めることに楽しみや励みを感じておられる方も多い。
若い層を取り込むことが課題。

民生地域常任委員会調査報告

8月5日(月)　市立ひまわり園の取り組みについて　住所:小野市河合中町

ひまわり園ってどんなところ？

主に18歳以上の知的障がい者の方が作業や生活支援・介護・余暇活動などのサービスを受ける生活介護事業所・就労継続支援B型事業所です。平成31年4月1日現在で31人の方が利用されています。

どんな作業をするの？

就労継続支援B型作業所として、紙箱折やギフト箱詰めなどをされています。また、自主生産事業として農園で野菜、果物や花弁を栽培し販売されています。

期待すること

丹精込めて育てられている葉ボタンは購入者に大好評なので、積極的なPRに努めていただきたい。また、ひまわり園で訓練を積んで就労継続支援A型事業所や一般企業への就労につながる成果も出ているので、さらに選ばれる施設になることを期待します。

8月5日(月)　下水道処理について(加古川上流浄化センター)　住所:小野市黍田町

加古川上流浄化センターの課題

供用開始から約30年が経過しているため、施設及び設備の老朽化への対応と昨今のゲリラ豪雨等による不明水への対応の2点が挙げられます。

※不明水とは…本来見込んでないにも関わらず下水道に流入する水のこと。

期待すること

毎日の生活に欠かせない下水道の仕組みを知ってもらい、多くの市民にその必要性を理解してもらうためにも、一般市民が見学できる機会をもっと設けていただきたい。そうすることで、下水道は勿論ですが、環境や暮らしについて「知る」「学ぶ」「考える」よい機会になると思います。

小野市のマンホール

周囲にそろばんの珠、中央にひまわりを抽象化して、その中に金物をデザイン。そろばんの珠は下水の供用開始の1990年を表しています。
カラーのマンホールもあるので探してみてください。

議員研修会

7月25日(木)　災害発生時における市の対応について

昨今、全国で「想定外」と言われる災害が発生し、多くの被害をもたらせています。小野市では、今年度より防災監を新設し、防災体制の強化を図っていますが、災害時の市の対応について確認し、議員としてどう対応すべきか改めて考える機会として研修を実施しました。

Q&A

Q 河合地区の避難所のあり方について。

A 河川の氾濫等が起これば、浸水の恐れがあるが、それほどの被害想定がない場合は、近所の避難所のほうが安心できる。
ただ、自主避難所として浸水の恐れのない「コミセンおの」も早い段階で開設している。危険を感じたら、自主的に安全な場所に避難してほしい。

【警戒レベルの導入】

警戒レベル	避難情報など	避難行動(とるべき行動)
5	災害発生情報	命を守る最善の行動
4	避難勧告・避難指示(緊急)	全員避難
3	避難準備・高齢者等避難開始	避難準備 時間のかかる人は避難
2	大雨注意報・洪水注意報	避難行動の確認
1	早期注意情報(警報級の可能性)	災害への心構えを高める

(危険度　大 ↑ 小)

Q 昨年、避難指示（緊急）を出した時の避難率は。

A 公的な避難所への避難率は約2.5％。これでも、県内では高い数字。町の公民館や親戚の家等に避難した方も相当数いる。

今年度から警戒レベルを用いた避難情報が発令されます。
レベル4で全員避難が必要です！

Q 市民への情報伝達は。

A 市では災害の様相に合わせ、小野市地域計画に定める職員参集・配備体制をとり、市長をトップとした災害対策本部を立ち上げるとともに、小野市安全安心メールをはじめとして、様々な情報伝達を行うが、特に台風接近時には全ての自治会長に台風の状況と今後の見通し、公民館等の地域避難所の開設依頼をしている。
また、避難勧告等を発令する際には、市内全域一斉に緊急速報メールを配信し、情報伝達している。

Q 災害弱者への情報伝達は。

A 「避難行動要支援者」には、市から電話連絡し、避難勧告等の情報提供や避難の呼びかけを行っている。また、自治会長・民生委員からも災害時には電話連絡や訪問によって避難の呼びかけ等を行っていただくことで、市と地域が協同して多重的に災害弱者へ情報伝達する体制を整備している。

市では、９月１日防災の日に緊急速報メールの訓練配信を行っています。防災意識を高め、受信確認を必ずしましょう。

警戒レベル3になれば、まだ大丈夫だと思わず、すぐに避難できる準備をすることが必要です！

議会を傍聴しませんか

☆12月定例会日程☆

11月28日(木)　午前10時～
本会議(第1日)　議案説明

12月18日(水)　午前10時～
本会議(第2日)　一般質問実施

12月19日(木)　午前10時～
本会議(第3日)　一般質問実施

12月25日(水)　午後1時30分～
本会議(第4日)　議案の採決など

★一般質問では、市長から提出された議案や、市政全般について議員が質問し、市長や部長等が答弁します。
★12月定例会で一般質問する項目・内容については、12月中旬に市議会ホームページに掲載します。

小野市議会では、本会議を一般公開しています。当日受付で、住所・氏名を記入するだけで、どなたでも議会の傍聴ができます。
市役所5階の議会事務局までお越しください。

傍聴席から見た議場

議会と市民との懇話会

一般質問が行われる18日(水)と19日(木)の本会議休憩中に、傍聴者から質問していただく機会を設けます。
議会傍聴を終えて疑問に思われた点など、ぜひ、ご意見をお聞かせください。

「託児コーナー」を開設

一般質問が行われる12月18日(水)、19日(木)は、「託児コーナー」を開設します。傍聴の際には、1歳から就学前のお子さまをお預かりします。
希望される方は、12月10日(火)までに議会事務局にお申し込みください。
（費用負担はありません）

傍聴に来れなくても…
QRコードで議会中継へ簡単にアクセス!

本会議をYouTubeで生放送、録画放送しています。スマートフォンやタブレット端末でQRコードを読み取り、ぜひご覧ください。

市議会放送

「手話通訳」・「要約筆記」を利用できます

本会議を傍聴される際に「手話通訳」・「要約筆記」を利用することができます。
希望される方は、希望される定例会開催日の8日前までに議会事務局にお申し込みください。
（費用負担はありません）

議会傍聴者数	9月定例会　61名 （令和元年度累計130名）

《お申し込み先》 議会事務局　TEL.63−1006（直通）　FAX.63−4108　E-mail:gikai@city.ono.hyogo.jp

議員はこれができません

議員は、公職選挙法により、選挙区内において、寄附行為等が禁止されています。
●選挙区内の人にお金や品物を贈ること　●年賀状等の挨拶状（答礼のための自筆を除く）

あとがき

今回の「小野市議会だより」は、広域連携を特集しています。もう一度表紙を御覧ください。どこの場所にどんな施設があるのか、出来るだけ市民の皆様に、わかりやすく見て頂けるよう工夫しています。小野市が北播磨総合医療センターを初め、たくさんの近隣市と連携しているのは意外だったのではないでしょうか。
また、決算研修会では小野市の1年間の予算執行を、各議員が詳細にチェックし、その後、付託委員会で審査しました。大切な税金の使い道なので、ぜひ皆様にも身近に感じて頂ければ幸いです。
（市議会報編集委員　久後淳司）